

第6回 Pitch to the Minister 懇談会“HIRAI Pitch” 議事概要

1. 開催日時・出席者等

- 日時：平成30年11月15日（木）15:00～16:10
- 場所：中央合同庁舎8号館10階 平井国務大臣室
- Pitch テーマ：完全自動運転がもたらす社会変革と新産業創出
- 招へい者：加藤真平 東京大学大学院情報理工学系研究科准教授/株式会社ティアフォー
- 出席者：平井国務大臣、上山 CSTI 議員、幸田内閣府審議官、中川審議官(科技)、黒田審議官(科技)、住田知財事務局長、行松審議官(宇宙)、三輪政府 CIO、柳原企画官(IT室)、古賀企画官(科技)、寺井秘書官、柴山秘書官、西山秘書官

2. 加藤准教授からの説明

- 自動運転は、既存の完成車、タクシーなどの営業車や物流車、敷地内のカート、の大きく3つに分けて考えることができるが、センサー、ソフト、ハードを別々に扱っては勝つことはできない。技術は同じなので、すべてをまとめて同じプラットフォームで、色々な分野の自動運転化に取り組むことが必要となっている。自動運転が全ての分野に入れば、80～160兆円規模の市場が見込まれるが、Google でもサービスしているのは、米カリフォルニア、ネバダ州だけにすぎず、中国、ASEAN のアジアを含めこれから陣取り合戦になってくる。
- 自動運転の技術自体は、既にある程度のものでできているものの法制度や社会受容性が課題だが、日本は世界に比べ規制緩和が進んでいる。免許を持った遠隔監視者がいれば運転席のドライバーがいなくてもよいので、ニーズの高い地方や観光地において、特殊な技術が不要なドライバーの現地雇用や遠隔ガイド等の都市部の雇用も増えると考えられる。
- ティアフォーは、自動運転ソフト（オートウェア）をオープンソース化し、主に国外で普及が進んでおり、世界で圧倒的なトップシェアを誇っている。日本のソフトウェア人材だけではシェアを保てないので、欧米、特にシリコンバレーの豊富な人材を取り込んでいる。オートウェアは、多くの OEM、Tier1、スタートアップ、そして大学等研究機関で使われているが、使っていること自体を公にする必要は無く、特に日本企業は使っていることを公表しない例が多い。日本は測量技術に強みがあるので、3次元地図を大事にしていくことが良いと思う。

3. 主な質疑応答・議論

- 自動運転を実用化のためには、自動運転車用の免許や遠隔運転者用の免許、そして保険

を作れるかが大事であり、免許と保険ができれば、後はだんだん慣れてくるのではないか、米国のように車に対して免許付与するといったことも考えられるのではないかとの意見があった。

○Society 5.0 を考える上で、自動運転は病院における人とのネットワークと相性が良く、ビジネスよりもインフラを整備するという考えの方が良いのではないかとの意見があった。

○国プロジェクトとしての SIP の一番の成果は、警察庁や国交省等の規制官庁を巻き込んで、自動運転に必要なルールを策定し、サイバー攻撃への対処や自動運転車が収集したデータの取り扱いなどについての国際的なルールも検討する必要があるとの意見があった。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)